

(様式第1号)

みなと SDGs パートナー 登録申請書

2025年10月29日

国土交通省港湾局長 殿

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第4条第1項に基づき、下記のとおり登録を申請します。

1. 概要

企業・団体名	パシフィックグレーンセンター株式会社
所 在 地	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目8番10号九勘末広通りビル4階
代表者役職・氏名	代表取締役社長 林 裕二
担当者連絡先	電話：080-4882-0652（永山） メール：nagayama@pgcc.co.jp
ウェブサイトURL	<a href="https://www.pgcc.jp/">https://www.pgcc.jp/</a>

2. 港湾関係企業等としての事業の概要

弊社は1967年に創業したサイロ会社であり、福岡の本社を中心に、岡山県水島港の西日本支店、熊本県八代港の八代支店、鹿児島県谷山港の南日本支店、3拠点に事業所があります。  
主な事業内容は、港湾運送業・倉庫業・通関業等になります。  
具体的には、世界各国から大型船で輸送されてくる穀物を荷揚げし、その後、サイロに保管しています。  
そこから飼料や食品メーカーに供給する業務を担っています。  
さらに、隣接する飼料・食品メーカーへの直送や、内航船やトラックを使った積み替え作業を行い、海運と陸運を通じて各地に安定的に穀物を供給しています。

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標
✓環境 □社会 ✓経済	省エネ委員会活動、再生可能エネルギーへの転換及び先進的な技術導入により、温室効果ガス排出量を削減する。	2024年度 : 2,572t-CO2 2030年度目標 : 1,050t-CO2
□環境 ✓社会 ✓経済	障害者雇用促進法に従い、障害者雇用を推進する。	現状 : 0人 2030年度目標 : 2人
□環境 ✓社会 ✓経済	職業生活と家庭生活の両立に資する雇用環境の整備として、年次有給休暇取得率を上げる。	現状 : 10.32日／人 2030年度目標 : 14日／人

(次項へ続く)

## SDGs達成に向けた具体的な取組

カテゴリ	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
人権・労働	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している						5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3					16.1 16.2 16.7	
	【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	就業規則の順守事項にハラスメントをしないことと明記					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8							16.1	
	【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	毎月経営層に残業時間一覧を提出し長時間労働防止に取り組んでいる								8.5 8.8								
	【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している					4.4				8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						
	【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	毎月労働安全衛生委員会を開催し労働災害防止に取り組んでいる		3						8								
	【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	毎年定期的にストレスチェックを実施。相談員・窓口やEAP契約に基づく外部相談先を設けている		3														
	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	女性管理職の登用や退職後の再雇用体制を構築している				5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	親企業の研修に積極的に参加している			4	5.5			8	9								
	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している					5.5			8.5		10.2 10.3							
	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	時差出勤の導入やファミリーサポート休暇などを創設しライフワークバランスを浸透させている		3					8									
環境	【3Rの推進】 ・事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行う等、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進に取り組んでいる												11.6	12.4 12.5		14.1		
	【エネルギー】 ・自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている	省エネ委員会活動を通して、毎年「エネルギー消費原単位」と「電気需要最適化評価原単位」の目標を設定し、目標達成に向け取り組んでいる。						7.3						13				
	【温室効果ガス】 ・自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出量の削減を進めている	上記省エネ委員会活動及び「CO2削減プランの電力購入」により、温室効果ガス排出量の削減に努めている。					7.2 7.3					12.4	13.3					
	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	「毒物及び劇物取締法」により劇物指定されており、且つ「労働安全衛法の第2特定化学物質」に指定されている「臭化メチル」を燻蒸用途で適切に管理し使用している。		3.9		6.3				11.6	12.4							

カテゴリ	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
15 【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している									6.6									15	
	16 【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる								6.4	6.6									
						3.9			6	7						12	13.3	14	15
	17 【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している															12.6			
		18 【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	再生可能エネルギー及び原子力発電由来の電力(CO2削減プラン)で電力会社と電力需給契約を締結している。						7.2							13			
																12.2	13	14	15
21 製品・サービス 【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している				3.9												12.4			
	22 【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	穀物は呼吸をしているため、定期的に循環させ、徹底した品質管理のもと、安心安全な穀物をお客様へ提供している。								9									
							6								12	13	14	15	
	24 【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
25 社会貢献・地域貢献 【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している		修繕工事に地元の企業を積極的に参画させている				4					9		11	12		14	15		17
	26 【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	福岡市が推進する「一人一花運動」へ協賛し、地域の緑化活動やまちづくりに貢献している。				4								11		14	15		17
										8	9		11	12	13				

カテゴリ	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
組織体制	【内部管理体制】 ・SDGsの達成に向けた経営理念及び経営目標を社内で共有している	サステナビリティ委員会を組織して定期的に会合を設けている。マテリアリティも作成済み								8	9							17
	【法令遵守】 ・反社会的勢力の排除、汚職や贈収賄、不正競争行為の防止など法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	コンプライアンス委員会を組織し、コンプライアンス問題に対応している。また親会社との情報交換を密にしている。																16
	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している																	16
	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している(※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体)	親会社によるサプライチェーンの国内起点となる企業であるとの意識を常に持ち、安全安定操業を第一として取り組んでいる															16	17
	【リスクマネジメント】 ・法令遵守、環境安全衛生、労働環境などに関するリスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している																	16
	【社会的責任】 ・CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	日本国内の食用家畜用の餌を供給する産業の一翼として、安全・安心操業を旨として事業活動に取り組んでいる。															16	
	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	オールハザードBCPを作成し運用している。								9	11	13.1					16	
	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている								8	9								17

#### 上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

#### 【記載留意事項】

- ・各カテゴリ毎に少なくとも1つ以上の項目に「具体的な取組」を記載して下さい。
- ・列の高さは適宜修正して頂いて構いませんが、取組がない事項であっても列を削除しないでください。(空欄で結構です。)
- ・今回の申請に合わせて、今後取り組む予定のものについても「具体的な取組」として記載頂くことが可能ですので、積極的に記載して下さい。
- ・なお、今後取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。
- ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。
- ・取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。
- ・「主なSDGs(17ゴールと169ターゲット)関連項目」はあくまでも標準的なゴールとターゲット番号を記載したもので、個別の取組に合わせて必要に応じて適宜変更して下さい。